

ル后一日休校シ二十九日ヨリ挙行シタル華北運動会モ六月一日ハ休止セリ

#### 五、一般商民

一般商民ノ如キハ孫文又ハ三民主義ヲ理解セルモノ極メテ少ク単ニ公安局ヨリノ命ニ依リ五月二十六日以後約六割見当(表通りノミ裏通りハ掲出セス)半旗ヲ掲ケ歌舞音曲ヲ停止セルカ奉安当日ト雖モ休業セルモノナシ

#### 六、新聞社方面

在奉天各新聞社共ニ五月二十六日以来北京ノ孫総理移靈

祭状況ヲ詳報シ或ハ論説ヲ掲ケテ国民一般ニ哀悼ノ意ヲ表スヘキコトヲ掲載シ東三省民報ヲ除ク外全部六月一日ニハ哀悼ノ意ヲ表スヘク一日休刊セリ

#### 七、儀仗兵派遣

學良ハ総理靈柩奉安曲礼儀仗兵トシテ五月十二日騎兵三箇連五十名水兵五十名航空隊二十名飛機四架ヲ北平ニ派遣セリ

本信写送付先 在支公使 上海総領事

## 2 小幡公使アグレマン問題

754 昭和4年11月30日 在中国堀内臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

佐分利公使死去に対し関税会議における同公使裏面の努力を多としその計を痛惜する中国紙社説について

北平 発

本省 11月30日後着

### 第一三〇三号

貴電第三四六号ニ関シ

佐分利公使ノ逝去ハ当方面ニ多大ノ衝動ヲ与ヘ二十九日以来外交団及支那側各方面ノ弔問引モ切ラス又三十日ノ内外新聞紙モ大見出ヲ以テ通信及社説ヲ掲ケ凡テ誠意ヲ以テ同公使ノ功績ヲ称ヘ哀悼ノ意ヲ表シ居レルカ例ヘハ新晨報ハ関税会議ノ際日本カ原則上関税自主ヲ承認スルニ当リ同公使裏面ノ努力カ与ル所大ナルヲ多トシ其ノ計ヲ痛惜シタル上若シ死因カ外交上何等カノ暗礁ニ起因ストセハ其ノ大和魂ニ対シ尊敬ヲ禁シ得サルカ翻テ両国国交ノ前途ヲ思フ時

誠ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリト論セリ委細郵報

尚外交部ニ対シテハ三十日当地(字分不明)案保管処ヲ通シ正式通知ヲ発シ置ケリ  
上海、南京、奉天ニ転電セリ

755 昭和4年12月7日 幣原外務大臣より  
在上海重光総領事 宛(電報)  
在南京上村領事

小幡前駐トルコ大使を佐分利公使の後任とした  
意向につき中国側態度確めの上回電方訓令

本省 12月7日前11時発

(館長符号)

帝国政府ニ於テハ佐分利公使ノ後任トシテ小幡大使ヲ派遣シ度キ意向ナル処同大使カ曾テ在支公使トシテ日支親善ノ為ニ尽瘁シタル事績殊ニ山東交渉ニ於テ王正廷ト共ニ交譲妥協ノ精神ヲ以テ難問解決ノ衝ニ膺リタルコトハ同大使ノ公正ナル対支意見ト共ニ支那当局ノ熟知シ居ル所ニシテ此ノ際速ニ在支公使ヲ得且当面ノ重要問題ノ交渉ニ膺ラシメ

ムカ為我外交界ノ先輩大使級ヨリ詮衡ストセハ国内的ニモ重キヲ為ス小幡大使ヲ措テ他ニ適任者ナキ次第ニ付貴官ハ至急王正廷ニ御面会ノ上以上ノ次第口頭ヲ以テ述ヘラレ本件任命ニ対スル先方ノ態度御確メノ上結果回電アリタク尚本件支那側ニ申出ノ次第ハ手続上ノ都合モアルニ付先方ニ於テ絶対極秘ニ附シ置ク様特ニ申添ヘ置カレタシ將又其ノ際王ニ於テ大使昇格問題ヲ持出スカ如キ場合ニハ帝国政府トシテハ主義上既ニ本件決定シ居ルコト御承知ノ通ナルニ附小幡大使ノ在支公使任命ハ昇格問題促進上与ツテ力アルヘキ旨私見トシテ申述ヘラレ差支ナシ

(上海ヘハ本電王正廷来滬セザル場合ヲ慮リ南京ヘモ同様訓令シ置ケリ

南京ヘハ本電王正廷赴滬ノ場合ヲ慮リ上海ヘモ同様訓令シ置ケリ) ト附記スルコト

756 昭和4年12月10日

在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛

奉天外交後援会による小幡公使任命反対通報  
について

テ中日将来ノ葛藤ヲ防止スヘキナリ目下日本外相ハ極力小幡氏ノ就任ヲ希望シ居レリ最後ノ如何ニ就テハ更ラニ通報ス

奉天外交後援會

右御参考迄此段報告ス

本信写送付先

在支公使

在奉天 吉林 哈爾濱 上海 南京各総領事領事

757 昭和4年12月12日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使任命に關し王正廷周龍光より未だ回答ないことについて

南京 発

本省 12月12日着

(館長符号)

小幡公使任命ニ関スル支那側回答ニ付テハ其後王正廷及周龍光ト会見ノ都度催促シ居ル次第ナルガ先方ハ国民政府ヨ

機密公第四四〇号

昭和四年十二月十日

在長春

領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉天外交後援會ノ駐支公使詮衡反対通信ニ関シ報告ノ件

本件ニ関シ当地長春抗俄後援會ハ本月八日奉天外交後援會ヨリ左記訳文ノ如キ通報ニ接シタル趣ナリ

記

聞ク処ニ依レハ日本ハ駐支公使佐分利ノ後任ニ適當ナル人物ヲ極力物色中ニテ前任土耳其大使小幡氏ヲ詮衡中ナリト云フカ小幡氏ハ曾テ駐支公使又其ノ前任公使日置益氏ヲ助ケ袁世凱ニ有名ナル二十一ヶ条ヲ提出シ又其ノ後段祺瑞、曹汝霖、陸徵祥ト共謀シ四十余万元ノ秘密借款ヲ為シタル経歴ヲ有スル者ニテ今回右小幡氏カ正式公使ニ任命サルルトヤハ国人ハ大ニ注意ヲ要スル次第ナルヲ以テ此ノ際各地外交後援會及抗露後援會及民衆ハ聯合シテ中日兩外交當局ニ対シ小幡公使任命ニ反対シ絶対ニ不承認ノ通電ヲ発シ以

リ未タ回答ナシトノ一点張ニテ明答ヲ与ヘサル次第ナリ然ルニ前電大使交換申出ノ件ハ汪公使ニ電訓シ閣下ニモ申入シメタル趣ナルニ付テハ或ハ其結果ヲ待チ居ル次第ニアラズヤトモ推測セラル

尚本件ハ絶対ニ極秘ニスベキ旨王及周ニ対シ十分念ヲ押シ置キタルニ拘ラズ十一日当地新聞ニ掲載セラレ居ルニ付早速周ニ詰問シタルニ周ハ自分及部長ニ於テハ絶対口外シタルコトナシ或ハ新聞ノ当テ推量ニ出テタルモノニアラズトモ思ハルガ出所ハ出来ル丈ケ取調フベキ旨約セリ為念

758 昭和4年12月12日

幣原外務大臣より  
在南京上村領事宛(電報)

汪中国公使より小幡公使任命と同時に公使館昇格方申出について

本省 12月12日後発

(館長符号)

十二月十日汪公使来訪小幡大使ノ「アグレマン」ニ關聯シ本国政府ノ訓令ニ抛ル趣ヲ以テ同大使ノ任命ト同時ニ公使

リ一般ニ反対アリ自分ノ手許ニモ既ニ多数ノ反対陳情到達シ居リ殊ニ党部方面ノ反対盛ナル為メ国民政府ニ於テモ容易ニ其態度ヲ決定シ兼テ居ル次第ナリト述ヘタルニヨリ本官ハ二十一ヶ条云々ノ新聞記事ハ自分モ承知シ居ル処ナルガ斯卡ルコトガ政府部内ノ問題トナリ居ルト聞キ甚タ意外ノ感ナキ能ワズ二十一ヶ条問題ノ際小幡大使ハ公使館ノ一館員タリシニ過キス假令二十一ヶ条問題ガ貴国ニ於テ不評判ナリトスルモ其ノ為メ當時ノ一館員タリシ小幡氏ヲ忌避セントスルハ乱暴モ甚タシク斯卡ル点マデ詮索立テシテ一国ノ代表者ニ対シ好悪ヲ公然言明スルガ如キコトトモナラハ兩國ノ国交上極メテ面白カラサル影響ヲ与フルニ至ルベシ殊ニ小幡氏ハ其後貴国公使トナラレ何等不評ナカリシノミナラズ貴部長ハ度々自分等ニ対シ山東交渉ニ於ケル同公使ノ態度ヲ賞揚シ右交渉成立ノ結果排日ノ空氣一掃セラレ急ニ親日団体モ出来タル旨述ベラレタル程ニテ其御話ニヨルモ同大使ノ日支親善ニ対スル功績ハ顯著ナリ依テ貴部長モ右事情ヲ一般ニ知悉セシメ且政府部内ニモ十分説明セラル、ニ於テハ貴方ニ於ケル誤解ハ直ニ氷解セラルベキヲ信シテ疑ハスト述ヘタルニ

館ヲ昇格アリタキ旨申出タルニ因リ本大臣ヨリ昇格問題ニ付テハ帝國政府ノ関スル限リ方針決定シ居リ可成速ニ之ヲ実行シ度キ考ナルカ出来得ル限リ關係列国トモ協調ヲ保チテ之ヲ實現シ度キ希望ナリ然ルニ今本件ニ関シ列国トノ交渉ヲ開始スルモ右ハ短期間ニテ意見ノ一致ヲ見得ヘキヤ疑ハシキ一方日支ノ間ニハ急速解決ヲ要スル重要問題山積シ居ル有様ナルヲ以テ速ニ在支公使ヲ任命スル要アリ從テ公使館昇格問題ハ此ノ際之ヲ切離シテ考慮シ度キ処國民政府ニ於テハ昇格ヲ「アグレマン」ノ条件トセラルル次第ナリヤト尋ネタルニ汪公使ハ其ノ然ラサル所以ヲ答ヘタルニ依リ更ニ本大臣ヨリ國民政府ニ於テハ小幡大使ニ対シ何等不滿ノ感情ニテモ有セラルル次第ナリヤト尋ネタルニ右ノ如キ事ハ之ナキコトト信スル旨ヲ答フルト共ニ可成速ニ昇格ノ実行ヲ希望シテ引取りタリ

本件ニ関スル支那側ノ意向ニ付テハ本十二日接到貴電ノ次第モアル処当方ノ意向ハ前記ノ通ニテ昇格問題ニ関シ十分ノ考量ヲ払ヒ居ルト同時ニ「アグレマン」トハ之ヲ切離スノ要アリト思考シ居ル次第ニ付既ニ汪公使ヨリモ報告アリタル事ト思料スルモ貴官ヨリモ為念右ノ趣旨王正廷ニ徹底

セシメラレ速ニ「アグレマン」ヲ与フル様御懇談相成結果  
回電アリタシ

759 昭和4年12月14日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

公使館昇格問題および小幡公使任命問題に關  
する王外交部長との会談について

南京 発  
本省 12月14日前着

(館長符号)

十二日附貴電接到シタルニヨリ十三日王正廷ト会见シ本官ヨリ汪公使ト閣下トノ会談ノ次第ヲ述べ大使館昇格問題ニ関スル我方ノ態度ハ右幣原大臣ノ言明ニ依ルモ明カナルニ依リ此点ハ幣原大臣ノ言明ニ信賴シテ可ナリ就テハ貴部長ニ於カレテモ過般本官ニ約束セラレタル通り此上トモ國民政府ヲシテ本件ヲ速ニ決定セシムル様御配慮アリ度シト述ヘタルニ王ハ自分ハ十分努力シ居ル次第ナルガ実ハ内情ヲ申上クレバ小幡公使ニ対シテハ二十一ヶ条問題トノ關係ヨ

王ハ素ヨリ右誤解一掃ニハ出来ル尤ケ努力シ居ルモ二十一ヶ条ト小幡大使トノ關係ハ一般腦裡ニ深ク殊ニ党部方面ノ心證甚タシク悪ク困リ居ル次第ナリ依テ自分ハ此際日本政府ヨリ何等カ南京政府ニ対スル好意ノ表示ヲ得之ニヨリ一般及党部ノ空氣緩和ヲ図ラント考ヘ右好意ノ印トシテ大使館昇格問題ヲ此際決定セラレンコトヲ提議スル次第ナリト弁解シタルニ依リ本官ハ大使館昇格問題ニ対スル我方態度ハ曩ニ反復説明ノ通りニテ幣原大臣ノ言明ニ信賴セラレテ可ナルニヨリ貴部長ニ於カレテハ小幡大使ニ関スル誤解一掃ニ努力シ速ニ任命ヲ見ル様セラル、コト肝要ナリト言ヲ挿ミタルニ

王ハ例ノ如ク自分ハ外交部長就職以来日支親善ノ為ニアラユル努力ヲナシタルニ拘ラズ日本ハ親善ヲ表示スル何物ヲモ与ヘズ然ルニ英國ノ如キハ実ニ賢明ニシテ条約期限到来セサルニ早クモ支那ノ空氣ヲ察シ自發的ニ其改訂交渉ニ着手シ近クハ鎮江ノ租界ヲモ返還シ為ニ支那ノ對英感情ハ良好トナレリ自分ハ曩ニ佐分利公使ニモ此際何カ支那ニ対シ好意ヲ表示スルモノヲ与ヘラル、様異々モ話シ置キタルガ幣原大臣就任以来未タ何等ノ好意的表示ナク大使館昇格問

題モ日本ハ今日マデ度々公約ヲナシタルモ幣原大臣ノ時代トナルモ実行セラレズ英国ノ例ト思合セ実ニ失望セリ自分ハ最早日本ノ此種公約ニハ信用ヲ措キ難シト愚痴ヲ滑ラシタルニヨリ本官ハ大使館昇格問題ノ実行ガ延引セラレタルハ貴国ノ内政関係ニヨルモノニシテ日本政府ノ責任ノミト云フヲ得然ルニ一概ニ日本政府ノ約束ニハ信用ヲ措キ難シト云フハ穩当ニアラサルベシ且ツ小幡ノ人ニ対シ非難アリ容易ニ決定ヲ見ズト言ヒナカラ大使館昇格問題ト交換のナラハ小幡ノ任命承諾スルモ差支ナシト言フガ如キ口紛ヲ洩ラサル、カ如キハ自分ノ甚タ意外トスル所ニシテ

若シ貴部長ノ説其儘本國政府ニ報告スルニ於テハ政府ハ貴部長ガ此際大使館昇格問題ヲ解決セントスル魂胆ヨリ小幡ニ難癖ヲ付ケ居ラルトノ印象ヲ与フベクスクテハ當國ノ感情ヲ疎隔セシメ問題ヲ益々紛糾セシムベシト陳ベタルニ王ハ斯カル誤解ハ自分モ甚タ迷惑トスル所ナリ自分ハ小幡公使ノ任命ト大使館昇格問題トヲ嚴重区別シ居ルモ実ヲ言ヘバ駐日汪公使ハ国民党トノ關係モアリ既ニ召喚スルコトニ決定シ居リ(多分他ニ転動トナルベシ)其後任ハ党ノ有力者ヲ詮議シ居ル処同人ハ大使ニアラサレバ之ヲ受ケズトノ

問題ハ別個ノ問題ニシテ何レガ先キニ實現スルヤ等(脱)所ニアラサルモ二ノ速ニ解決ヲ要スル問題ヲ処理センガ為メニハ之ヨリ外ニ方法ナカルベシト詭弁ヲ弄シタルニヨリ本官ハ其論理ノ誤レル点ヲ指摘シ反省ヲ求メタルモ結局反省ノ模様ナキニヨリ已ムヲ得ズ貴部長ニ於テ二ノ問題ヲ全然切り離シ問題今後ノ發展如何ニ拘ラズ小幡公使ノ任命承認取付方ニ付テハ貴部長ニテ努力セラル、コトヲ明言セラル、ニ於テハ自分ハ兎ニ角貴部長申出ノ次第ヲ政府ニ取次クベシト述ベタルニ王ハ感謝シ素ヨリ大使問題ノ成行如何ニ拘ラズ小幡公使ノ「アグレマン」ヲ得ル様努力スベシト答ヘタルニヨリ一応会谈ヲ打切りタリ

然ルニ其後郭同ハ本官ニ対シ同人十三日朝蔣介石ト面会ノ際蔣ヨリ小幡大使ヲ知り居ルヤト尋ネラレ又其ノ際邵力子ヨリモ同様ノ質問アリ同大使ノ人物ヲ賞揚シ置キタルガ蔣介石ハ未タ何レトモ決定シ居ラズ決定マテニハ尚時日ヲ要スベキモ「アグレマン」ヲ拒絶スルガ如キコトナカルベキ旨内話次第アリ二十一ヶ条問題ノタイ等(漢頭)ハ王正廷ノ差シ金ニ依ルカ又ハ党部方面一部ノ宣伝ニヨルカハ未タ明カナラサルモ政府内部ニ於テ問題視セラレ居ル模様ナリ然ルニ他

コトニテ甚タ弱リ居ルニ付小幡公使任命ノ機会ニ大使交換ノ実行ヲ図ラントシ居ル次第ナリ就テハ若シ「インミディエトリ」ニ実行不可能ナラハ日本ハ速ニ(イン・インミディエトリ・フューチュア)大使館昇格ヲ実行スル意向ヲ有スル旨文書ヲ以テ申越ス様御願ヒス然スレハ右有力者ニ示シ間モナク大使トナル次第ニ付暫ラク辛抱スル様説得シ得ベク好都合ナリ右文書ハ公表セサルモ差支ナク且小幡公使任命トハ別個ノ問題トシ差支ナキ次第ナリト述ヘタリ依テ本官ハ此際斯カル提議ヲナサル、ハ如何ニモ貴方ニ魂胆アルガ如キ印象ヲ与ヘ面白カラサルニヨリ貴部長ハ先ヅ小幡ニ対スル誤解一掃ニ極力努力セラレ本件ニ関スル國民政府ノ意向ヲ速ニ取纏メル様セラレ右決定ノ上更メテ提議セラル、ニ於テハ日本政府ノ同情ヲ惹キ問題ノ解決上効果アルベシト説キタルニ

王<sup>(6)</sup>ハ貴見一応尤モナルガ小幡ノ「アグレマン」ヲ急キ居ルト同様当方モ大使問題ノ決定ヲ取急ク事情アリ就テハ自分ハ此ノ上トモ小幡大使ニ対スル誤解ヲ積キ速ニ「アグレマン」ヲ取付クル様極力努力スベキニ付貴官ニ於テモ貴政府ニ報告セラレ速ニ其承認ヲ得ル様御配慮アリ度ク右二個ノ

方王ハ其間ニアリテ一手柄セント期<sup>(金)</sup>シ居ルモノナルコト容易ニ看取セラル、所ナレハ我方ガ餘リニ焦リ居ル素振ヲ示スニ於テハ王ハ愈々決定ヲ遷延セシムル手段ヲ取り大使問題ノ解決ヲ迫ルコト、ナルベキニ付此上ハ我方ノ焦リ居ル様子ヲ示サバ爾様留意スルト共ニ機会アル毎ニ王ノ最後ノ言明ヲ言質トシ其注意ヲ喚起シ努力ヲ促カス方得策ト存セラル。

760 昭和4年12月14日 幣原外務大臣より  
在南京上村領事宛(電報)

王外交部長に対し小幡公使のアグレマンに必ず  
る様説得方ならび公使館昇格問題をアグレマン  
の条件とすることに關し猛省を促す様訓令

第一七四号(極秘符号)

本省 12月14日午後6時30分発

本十四日接到ノ貴電ニ関シ元来「アグレマン」ハ國際相互間ノ礼讓ニ属スル事柄ニシテ一國カ最適任者ト認メテ送ラムトスル代表者ニ対シテハ相手國ハ非常重大ナル理由之ナキ限り妄リニ異議ヲ申立ツヘキモノニアラス小幡大使ノ場

合ヲ見ルニ既ニ貴官ヨリ縷々御説示ノ通所謂二十一ヶ条ノ際ハ同大使ハ単ニ一館員トシテ全ク時ノ政府ノ命ニ依リ事務のニ行動シタルニ外ナラス而モ其ノ後支那側ニ於テハ同大使ヲ公使トシテ受ケ入レ居ルノミナラス山東交渉ニ当リ同大使カ日支国交ノ増進ニ寄与シタル功績実ニ顕著ナルモノアリタルハ王正廷モ十分認メ居ル通ニシテ同交渉終結ノ際王ハ全権委員トシテ小幡公使ノ努力ニ一方ナラス感謝シ右感謝ノ意ヲ表示スル為勲章ヲ贈与シ度シトノ事ナリシモ同公使ハ當時既ニ最高勲章タル一等大綬宝光嘉禾章ヲ受領シ居リタル為何等カ他ニ謝意ヲ表明スル方法ナキヤト種々苦心ノ結果武官ノ勲章タル一等文虎章ヲ贈与スルコトナリタル位ナリ故ニ若シ支那側一部ニ二十一ヶ条云々ニ関スル誤解アリトセハ貴説ノ通王ニ於テ極力氷解ニ努ムルコソ真ニ大局ヲ思フ為政治家ノ取ルヘキ態度ナリ又公使館昇格ニ對スル日本ノ方針モ既ニ御説明ノ通ニシテ他國トノ關係ヲ無視シ此ノ際直ニ実行スルコトハ到底出来難ク一方「アグレマン」ハ其ノ人ノ「メリット」ニ依リ許否ヲ決スヘキモノナルカ故ニ公使館ノ昇格問題ノミナラス其ノ他如何ナル問題ト雖之ヲ「アグレマン」ノ条件トスルコトノ許容シ難

キハ外交界ノ經驗ニ乏シカラサル王トシテハ知悉シ居ル筈ナリ今ヤ日支国交カ極メテ重要機微ナル岐路ニ立テルニ当リ支那側ニ於テ右ノ如ク全ク謂レナキ問題ノ為我代表者任命ニ異議ヲ挿サマンカ自然我方ニ於テモ将来支那側代表者ヲ受ケ入ルルニ困難ナル事情ヲ醸スヘク遂ニハ兩國間互ニ代表者ノ交換ヲ困難ナラシムルカ如キ事態ヲ生セサルヲ保セス曩ニ朱兆莘氏ノ「アグレマン」ニ付国民政府ヨリ非公式ニ開談アリタル際実ハ我方内部ニ於テハ同氏ノ排外的言動ニ顧ミ多少ノ異論ナキニアラサリシモ我方トシテハ日支国交ヲ重ンスルノ餘リ反対ヲ押切り朱氏ノ個人ニ對シテハ異存ナキ旨回答シタル次第アリ小幡大使ノ任命ニ付テハ既ニ新聞紙上ニモ兎角ノ報道伝リ居ル次第ナレハ此ノ際此ノ上本件決定ヲ遷延セムカ其ノ内ニハ為ニスル者ノ乗スル所トナリ日支關係上極メテ面白カラサル事態ヲ惹起スルノ虞ナシトセス就テハ貴官ハ再応王部長ニ御面会ノ上以上ノ趣旨ヲ布衍力説セラレ先方ニ於テ一日モ速ニ我方ノ求メニ応スル様御努力相成度シ將又公使館昇格問題ニ關シテハ御承知ノ通我方トシテハ日支国交ヲ重要視スル見地ヲリ自発的ニ方針ヲ決定シ既ニ所要予算モ計上シ居リ又昇格実現ノ為

關係列國ト交渉シタルコトアル外本年六月頃芳澤公使御信任狀提出ノ際我方ノ意向ヲ漏シタルコトハアルモ王ノ云フカ加ク何等口約ヲ与ヘタルコトナキノミナラス本件其ノ後ノ成行ハ何等帝國政府ノ誠実ヲ疑ハシムルモノナキニ王ニ於テ漫然帝國政府ノ不信呼リヲ為スハ本大臣ノ頗ル不満トスル所ニシテ其ノ他帝國政府ニ於テハ曾テ約束シタルコトヲ反古ニシタルコトナキコト世界列國ノ等シク承認シ居ル所ナルニ付此ノ点特ニ王ノ猛省ヲ促サレタシ尚昇格問題ニ對スル本大臣ノ意中ヲ云ヘハ小幡大使ノ在支公使任命後遲滯ナク列國側ト協議ヲ開始スルト共ニ徒ラニ事態ヲ遷延セシメサル所存ナルモ本件ニ關シ文書ノ交付ヲ求ムルカ如キハソレ自身本大臣ニ對スル不信ノ表示ナル旨ヲ告ケラレタシ

761

昭和4年12月15日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使任命に関する中国紙論評は党部乃至  
外交方面の宣伝と認められることについて

第一二五九号(極秘)

南京 12月15日前発  
本省 12月15日後着

小幡大使ヲ駐支公使ニ任命スヘシトノ報当地ニ伝ハルヤ支那新聞ハ兎角ノ評論ヲ為シ居ル処右ハ何レモ党部若ハ外交部方面ノ不純ノ目的ヨリ出テタル宣伝ト認メラルモ御参考迄左ノ通

一、十四日ノ中央日報ハ社説ニ於テ先ツ電通カ同公使ノ任命ニ對シ国民政府ニ於テ同意セサルニ既ニ同意セリト報道セルヲ攻撃シ(往電第一二五五号王正廷談話ニモアル通支那側ハ支那一流ノ考ヨリ右電通等ノ報道ヲ以テ日本ノ反对宣伝ナリト思惟セルモノノ如シ)進テ人間ハ感情ノ動物ナレハ嘗テ極端ナル侵略政策ヲ代表セル同公使ニ對シ憤激ノ情ヲ禁スル能ハス況ヤ政府ノ政策決定ニ當リテハ各方面ヨリ蒐集セル材料ヲ参考トスルモノナレハ同公使ノ任命ハ日支国交ノ前途ニ特別ノ影響ナシト言フ能ハスト為シ居レリ

二、十五日ノ同紙ハ本月五日ノ福岡日日新聞ノ論評要領ナリトテ「小幡大使カ嘗テ二十一ヶ条問題ニ關シ袁世凱ト

直接交渉スルニ当リ右手ニ高ク条約原文ヲ掲ケ左手ヲ以テ卓ヲ叩キ袁ヲシテ忽チ失色セシメタルカ如キ以テ同氏ノ豪放不羈ヲ知り得ヘク又山東交渉ノ際顧維鈞カ或ル点ニ付反覆説明セムトスルヤ同氏ハ直ニ起チテ之ヲ睨視シテ曰ク本件ハ既ニ完結シ居リ今ヤ唯文書ノ説明ヲ求ムルニ過キス爾須ク更ニ書類ニ就キ研究セヨト其ノ深刻ナル外交的手腕スノ如シ云々ト小幡大使ヲ持上ケ居レリ」ト記シ却テ之ヲ惡意ノ宣伝ニ供シ居レリ

支、上海へ転電セリ

762 昭和4年12月18日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使のアグレマンを拒否する旨の王外交  
部長の口頭陳述について

南京 12月18日前発  
本省 12月18日前着

第一二六九号(大至急、極秘)

貴電第一七四号十五日接到セルニ依リ直ニ王正廷ニ会見ヲ申込ミタルモ当日ハ日曜ニテ在宅セス十六日モ早朝ヨリ外

出シ午后迄外交部ニ顔出セサルニ依リ已ムナク周龍光ニ対シ御訓令ノ次第詳細説明シタルニ周ハ我方ノ主張ヲ充分諒解シタルニ依リ周ヨリ王正廷ヲ説得スル様依頼シ置キタル処同夜周ヨリ電話ニテ詳細王ニ伝ヘタル旨申越セリ依テ其ノ反響ヲ探ルト共ニ更ニ王説得ノ為本十七日午後本官王ヲ往訪セル処王ハ如何ニモ当惑セル面持ニテ先方ヨリ口ヲ開キ誠ニ乍遺憾国民政府ハ小幡大使ノ来任ヲ拒絶スルコトニ決定セリト述ヘタルニ依リ本官ハ事ノ意外ニ驚キ実ハ本日モ貴部長ノ御尽力ヲ依頼セムトテ来訪シタル次第ナルカ国民政府ハ如何ナル理由ヲ以テ拒絶ニ決定シタル次第ナリヤト質問シタルニ王ハ正式ニハ理由ヲ示スコト能ハス唯貴官ヨリ口頭ヲ以テ「アグレマン」ヲ要求シ来レルニ依リ自分モ口頭ヲ以テ国民政府ハ小幡大使ヲ以テ「パーソナル、ノン、グラタ」ト認ムルニ依リ「アグレマン」ヲ与ヘ得サル旨御答スル丈ケナリ然レトモ貴官ハ前回会見ノ際自分ヨリ説明シタル次第モアリ且新聞ノ記事論調等ニモ依リ拒絶ノ理由ヲ推測シ得ヘシト述ヘタリ依テ本官ハ抑々「アグレマン」ハ国際礼讓ニ属スル事柄ニシテ一國カ最適任者トシテ認メ送ラムトスル代表者ニ対シテハ非常重大ナル理由ナキ

限リ之ニ異議ヲ挟ムヘキモノニ非ス小幡大使ノ場合ヲ見ルニ所謂二十一ヶ条ノ際ハ公使館ノ一館員トシテ事務的ニ行動シタルニ過キス而モ其ノ後一度貴國ノ公使トナリ山東交渉ノ際ニ於ケル功績ハ貴部長ノ最良ク認識セル所ナリ

然ルニ今更同大使カ一館員タリシ当時ノ二十一箇条問題ヲ持チ出シ兩國關係ニ及ホス重大ナル影響ヲモ顧念セサルカ如キハ自分ノ到底諒解シ得サル処ニシテ恐ラク貴部長ノ意

ニモ非サルヘシト述ヘ更ニ貴電第一七四号前段ノ各点ヲモ補足説明シ就テハ今一応貴部長ヨリ国民政府ノ小幡大使ニ対スル誤解ヲ解ク方法ヲ講スルト共ニ「アグレマン」拒否ノ兩國外交ニ及ホス影響ノ重大ナルコトヲ説明シ其ノ反省ヲ求ムル様セラレタシ本官トシテハ斯ル薄弱ナル理由ヲ以テ国民政府力之ノ重大ナル決定ヲナシタリトハ如何ニシテモ政府ニ報告シ得サル処ナリト述ヘタルニ王ハ公式ニハ申ササル次第ナリト更ニ一応断リタル後実ハ本件ニ関スル貴方ノ立場ハ曩ニ貴官ヨリモ直接説明アリ昨日ハ周司長ヨリモ詳細報告アリタルノミナラス自分ハ誰ヨリモ良ク小幡大使ノ為人ヲ承知シ居レリ從テ自分ハ国民政府ニ対シ小幡大使ノ人物、経歴ヨリ国際礼讓ノ何物タルヤ等一切ノ事項ヲ

詳細説明シ自分トシテ尽スヘキ責任ハ充分ニ尽シタル次第ナリ而シテ国民政府ニ於テモ本件ヲ頗ル重要視シ前後十日間ニ亘リ慎重審議利害得失ヲ極メタル結果兩國国交ノ為ヨリ云フモ支那朝野ニ大ナル批難ナキ代表者ヲ迎フルコト結局兩國国交ノ為ナリトノ決論ニ到達シタル次第ニテ本件ハ決シテ輕々ニ決セラレタル次第ニ非サルコトハ充分ノ御諒解ヲ願ヒタシト述ヘタリ

依テ本官ハ然ラハ貴部長ハ「アグレマン」ヲ与フル様充分ニ国民政府説得ニ力ヲ尽シタルモ其ノ効ナク反対ノ決定ヲ見タリト言ハルル次第ナリヤト反問シタルニ王ハ自分ハ素ヨリ説得ニ力メタリトカ反対セリトカ云フ如キコトハ申シ得サルモ本件ニ関シ問題トナルヘキ一切ノ点ニ付テハ詳細説明ノ勞ヲ取リタリ素ヨリ国交ニ及ホス影響如何ニ就テモ充分ニ意見ノ開陳ヲナシ国民政府ニ於テモ貴方ノ立場及本件拒絶ヨリ生スル結果等ニ関シテモ審議ニ審議ヲ重ネタル末最後ノ決定ニ到達セル次第ナルヲ以テ此ノ上再考ヲ求ムルモ再考ノ餘地断シテナキコトハ自分ノ言明シ得ル処ナリ就テハ最早自分トシテハ貴官ニ対シ国民政府カ如何ニ本件ヲ重要視シ慎重審議ヲ遂ケタル結果ナリヤヲ説明シ此ノ上

ハ貴国ニ於テモ我方ノ立場ヲ諒トセラレ兩國々交ノ為公使ノ職務執行ニ都合良キ代表者ヲ派遣セラレンコトヲ勧告スルヨリ外途ナキ次第ナリト述ヘタルニ依リ本官ハ如何ニ考フルモ貴方ノ立場ヲ諒トシ能ハサルヲ遺憾トストテ其ノ理由薄弱ナル所以ヲ反覆説明シ更ニ朱兆莘ノ場合ノ例ヲモ説明シ本件拒絶カ如何ニ兩國ノ關係ニ不快ノ感情ヲ醸シ兩國々交ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ホスヤ殊ニ条約問題、治外法権問題等ヲ眼前ニ控ヘタル今日兩國トシテハ苟モ感情ノ疎隔ヲ觀ルコトナキ様細心ノ注意ヲ以テ善処スルノ要アリ等反覆説示シタルカ王ハ貴官ノ謂フ所ハ自分モ良ク承知シ居リ国民政府ニ於テモ之等一切ノ点ヲ十日間ニ亘リ充分ニ考慮シタル結果ナルコトヲ諒解アリタシトテ議論トナラス依テ本官ハ然ラハ絶対ニ最早再考ノ餘地ナキ次等ナリヤト念ヲ押シタルニ王ハ絶対ニ再考ノ餘地ナシト言ヒ切リ然ラハ如何ナル結果ヲ生スルモ再考セサル覚悟ナリヤト更ニ念ヲ押シタルニ再考ノ餘地ナキコトヲ諒解セラレタシト繰返シ最早到底議論ノ餘地ナキコト明カトナリタルニ依リ遂ニ辞去セリ

本官ハ当初ヨリ王正廷ヲ説ク一方戴天仇等ノ要人ヲモ説得

小幡大使「アグレマン」交渉ノ成行ハ上村領事ヨリノ報告ニ依リ詳細御承知ノ通ナル処王ニ於テ其ノ言ノ如ク果シテ本件決定ニ際シ考量ニ容ルヘキ凡テノ事情殊ニ本件拒否ノ結果ノ重大性ニ付キ十分政府部内ノ注意ヲ喚起シタリヤ否ヤ頗ル疑ハシキモノアリ十三日上村領事ト応酬ノ際王ノ説明ニ依レハ支那側ニ於テ大使任命ノ必要ニ迫ラレ居ルカ為我方ヨリモ少クトモ極最近ニ昇格スヘキコトノ言質ヲ得ルコトカ要件ニシテ此ノ事サヘ承諾ヲ得ハ多少ノ反対ハ押切り得ルカ如キ印象ヲ与ヘ右ニ関シ上村ヨリ兎モ角モ請訓ニ及ヒタル次第ナル処昇格問題ニ関シ支那政府ノ希望ヲ充分考量セント欲スル我方ノ決意ハ往電第一七四号末段ニモ明カナルカ此ノ点ニ対スル当方ノ意向ハ他ノ諸点ト共ニ上村ヨリ周龍光ニ伝ヘ尚本大臣ヨリモ汪公使ニ説明シ置キタル通り恰モ昇格ノ実行ヲ「アグレマン」ノ報酬トスルモノノ如キ觀アル解決方法ハ我ノ承諾シ得ヘキコトニ非ス、此ノ立場ハ王部長ニ於テモ諒解スルニ至リタルト共ニ王部長自身カ曾テ国民党ノ反対セル北京政府ノ下ニ小幡公使ト接觸シタル當時ノ事實ハ今更国民党部ニ説明スルコトヲ憚ル内情モアリ此ノ際公使館昇格ノ即時実行不可能ナルニ於テハ

スヘキヤニ付考慮シ居タル次第ナルカ斯ルコトハ王正廷ノ性格ニモ顧ミ却テ王ノ感触ヲ刺戟シ反対ノ結果トナルヲ考慮シ差控ヘ飽迄外交部長タル王ヲ立テ本件解決ニ関シテハ王ニ全責任ヲ負ハス様仕向ケタル次第ナルモ遂ニ此ノ結果ニ立至リタルハ遺憾ナリ

貴電一七四号ト共ニ上海ニ暗送セリ

763 昭和4年12月23日 幣原外務大臣より  
在上海重光総領事宛(電報)

国民政府における小幡公使アグレマン拒否決定當時の事情並びに同政府委員の意向確め方  
および同政府側の深刻な反省を促し結果回電  
方訓令

別電 十二月二十三日發幣原外務大臣より在上海重

光総領事宛第五六二号

小幡公使のアグレマン拒否問題に關し汪駐日公使との会談について

本省 12月23日後7時5分發

第五六一号(極秘)

小幡大使問題ニ付党部ヲ説得スルノ口実ナク遂ニ党部ノ強硬論ニ引摺ラレタルモノナルヤモ知レス又国民党内ニ於テ王部長ニ嫌ラサルモノカ王ヲ窮地ニ陥レムトスル陰謀ノ一部トモ想像セラレサルニ非ス何レニスルモ本件今日ニ至ル迄ノ交渉方法トシテハ上村領事取計ノ通王ヲ相手トスル外ナカリシ事当方ノ十分諒承スル所ナリト雖事茲ニ至リテハ此ノ際出来得ル限り本件決定ノ真相ヲ詳カニシ置ク要アリト認ムルニ付貴官ハ上村領事トモ聯絡ノ上最モ機宜ニ適スト信セラルル方法及機会ヲ捕ヘ国民政府委員中ノ有力者等例ハ胡漢民戴天仇辺リニ渡リ付ケ本件決定當時ノ実情並之等委員ノ意向御確メノ上回電アリ度ク尚右ノ結果果シテ当方ノ真意殊ニ事態ノ重大性ト之ニ対スル本大臣憂慮ノ次第先方ニ徹底シ居ラサル事ヲ認メラレタル場合ニハ機ヲ逸セス別電第五六二号及上村領事宛往電第一七四号ノ趣旨適宜按配ノ上本件此ノ儘ニテハ我方トシテハ大使ハ固ヨリ公使ト雖モ速ニ任命スル訳ニ行カス自然将来支那側代表者ノ受入レニモ困難ヲ生スヘキ次第ニテ急速調整ヲ要スヘキ案件山積シ居ル折柄日支国交ノ為極メテ好マシカラサル事態ヲ生スル虞アルコトヲモ附加シテ彼等ノ深刻ナル反省ヲ促

ス方法ヲ講セラレ結果回電アリタシ  
別電ト共ニ南京ニ転電アレ

(別電)

本省 12月23日後6時30分発

第五六二号(極秘)

十九日汪公使ヲ招致シ小幡大使「アグレマン」ノ件ニ関シ其ノ後本國政府ヨリ何等通報アリシヤヲ尋ネタルニ汪ハ昨日簡單ナル電報アリシカ國民政府ニ於テハ「アグレマン」ヲ躊躇シ居レリ惟フニ國論ノ沈靜ヲ待ツモノノ如クナルヲ以テ此ノ際昇格問題ヲ進メラルルコトハ事ノ決定ニ好影響アルヘシト述ヘタルニ付本大臣ヨリ本件ニ関シ王部長及上村領事間數次ニ亘ル応酬ノ経緯詳細電報ニ接シ居レルカ之ニ依レハ最早最終的ニ拒否アリタルモノト解セラル抑モ今回佐分利公使ノ後任者ヲ詮衡スルニ当リ本大臣トシテハ二ツノ点ヲ重視セリ即チ一ハ新支那ニ理解ヲ有スルコトニシテ他ハ其ノ人カ国内ニ重キヲ為スコト之ナリ此ノ標準ニ基キ千思万考ノ結果小幡大使ノ外他ニ適任者ナシトノ結論ニ達シ「アグレマン」ヲ求メタル次第ナリ殊ニ自分ハ小幡大

使カ此ノ際一身ノ榮達ヲ度外視シテ誠心誠意今後ノ生涯ヲ日支關係ノ改善ニ献ケ度キ決意ヲ有セラルルヲ知リ同大使ノ心事ト努力トハ追テ支那國民ノ認識ヲ得ルニ到ルヘキヲ疑ハス今ヤ國民政府ハ二十一ヶ条云々ト云フカ如キ理由ニ依リ右任命ノ同意ヲ拒絕セルモ同大使ハ大正四年當時ハ単ニ一公使館員トシテ政府ノ訓令ニ基キ公使ノ指揮ノ下ニ行動セルニ止マリ何等個人的ノ責任ナキカ故ニ Persona non grata ト目セラルヘキ理由ナキハ云フヲ待タス曩ニ臨時法院問題ニ付テモ本大臣ハ日本代表者ノ討議参加ノ為支那ノ法律上ノ地位ヲ毀損スルモノニ非サルノミナラス却テ事實上問題ノ公平ナル解決ニ資スル所アルヘキヲ信シ条理ヲ尽シテ懇談ヲ試ミタルニ拘ラス國民政府ハ飽迄我主張ヲ峻拒シ今又小幡大使任命問題ニ関シ明確ナル理由ナクシテ不同意ヲ表セルハ全ク国内的見地ヨリ民論ノ沸騰ヲ顧慮スルニ出テタルモノト推測スルノ外ナシ茲ニ於テ本大臣ハ斯ノ如キ國民政府ノ態度ヲ一貫スル主義上ノ問題ニ亘リテ篤ト考察ヲ加ヘサルヲ得ス即チ國民政府ハ日支案件ノ處理上何等カ世論ノ要求アラハ其ノ全然誤解偏見ニ基ク場合ニ於テモ理非ヲ明ニシテ民衆ノ惑ヲ解クコトナク徒ラニ世論ヲ操リ

テ無理ナル要求ヲ強行セムトスルモノナリヤ若シ然ラハ本大臣ハ日支國交ノ前途ニ関シ深甚ナル憂慮ヲ禁スルコト能ハスト述ヘタルニ汪ハ外交部長ハ少クトモ小幡大使ヲ諒解シ居リ個人的ニ何等反感ナシト思考ス但同大使ニハ二十一ヶ条問題ノ交渉ニ参加シテ支那當局ヲ威喝スルカ如キ言動アリタリトノ噂アリ從テ今大使ノ赴任ハ支那國民ノ神經ヲ刺戟シ今後諸案件ノ交渉ニ困難ヲ生スヘシト云フノ外他ニ理由ナカルヘシト弁明セルヲ以テ本大臣ヨリ右同大使ノ言動ニ関スル噂ハ全ク無根ノ捏造ニ過キス國民政府ニ於テモ之ヲ真面目ニ問題ニセルモノトハ信シ難シト答ヘ置キタリ

憂慮ハ國民政府ニ於テ十分ニ諒得セラレムコトヲ望マサルヲ得スト述ヘタルニ汪ハ能ク了承シタルヲ以テ右貴意ノ存スル所ヲ詳細本國政府ニ電報スルト共ニ私見トシテ本件拒絕ノ事實伝ハルニ於テハ日本ノ朝野ニハ俄然重大ナル形勢ヲ誘致スヘシト附記スヘキ旨ヲ答ヘ同時ニ日本側ニ於テモ此ノ際右拒絕ノ事實ヲ秘セラレムコトヲ求メタルニ付承諾シ置ケリ

次ニ汪ハ貴大臣ノ諒解サルカ如ク小幡大使ノ「アグレマン」拒絶カ最終的ナリトセハ日本政府ハ結局之ニ対シ如何ナル措置ヲ執ラルヘキヤト尋ネタルニ付本大臣ハ自分トシテハ將來常ニ日支國交ノ大局ニ重キヲ置キ臨時法院問題等ニ付テモ及フ限り隱忍シテ大局ノ維持ニ努メ來レルモ不幸ニシテ今又本問題ノ発生アリ我國内人心ニ及ホス衝動ハ容易ナラサルモノアルヘシ固ヨリ自分ハ斯ル國民政府ノ態度ニ對シテモ何等報復又ハ強制的ノ手段ヲ執ラムトスルノ意アルニ非ス唯此等問題ノ國交ニ及ホス影響ニ付自分ノ抱ク

尚右會談ノ際本大臣ヨリ王部長ハ上村領事ニ對シ本大臣就任以來未タ支那ニ同情ノ表示ヲ為サストテ種々苦情ヲ述ヘタル趣ナルカ右ハ頗ル意外トスル所ニシテ本大臣ハ就任後僅ニ半歳ヲ出テス今日迄ハ謂ハハ政策実行ノ準備期間ニ在リタリ佐分利公使ノ帰朝報告ヲ徴シタルモ右ノ目的ニ出ツルニ外ナラス日支間諸問題ノ複雑重大ナルニ顧ミ慎重ナル準備ヲ要スルハ極メテ当然ナリ又公使館昇格問題モ既ニ大使タル小幡公使ヲ送ル場合ニハ人事ノ都合ヨリ云フモ問題促進上大ニ資スヘキコトト考ヘ居ル次第ナル旨ヲ告ケ置キタリ

764 昭和4年12月23日 幣原外務大臣より  
在上海重光総領事宛(電報)

訓令執行に当り「二十一カ条當時の小幡大使の  
態度云々」は中国側の誤解なる旨申添え方訓令

本省 12月23日後6時30分發

第五六三号

往電第五六一号ニ関シ

小幡大使カ二十一ヶ条當時高圧的態度ニ出テタリトノ風説  
ハ從來相当久シク流布セラレ居タル形跡アル処右談判當時  
ハ御承知ノ通り我方ハ大隈首相加藤外相ノ下ニ日置公使全  
權(高尾通訳)タリ支那側ハ陸徵祥(施履本通訳曹汝霖全  
權補佐)其ノ衝ニ当リ小幡大使ハ會議書記官トシテ列席シ  
發言セス況ンヤ福岡日日掲載ノ如ク案ヲ叩キテ支那側全權  
ヲ脅喝シタリト云フカ如キハ全ク跡形モナキ捏造説ニシテ  
主トシテ討議ノ模様報告ノ任ニ当リ居リ但日置全權落馬ノ  
際一週間位重要ナラサル問題ニ付全權代理ヲ勤メタルニ過  
キス尚其ノ後小幡大使ハ在支公使トシテ山東交渉ノ任ニ当  
リ同公使ノ重望ニ依リ彼ノ難局ヲ片附クルヲ得タリトテ支  
那側ヨリ特ニ文虎章迄モ贈与サレタルハ前電ノ通りナリ而

シテ山東協定ハ時ノ參議院ヲ通過シタル次第ナルカ當時ハ  
孫文ノ約法復活時代ニテ且下國民政府ノ要路ニ立テル人ノ  
中右參議員タリシモノ少カラサル筈ナリ  
小幡大使高圧的態度云々ハ不幸ニモ多方面ニ誤信セラレ居  
ル傾アルヲ以テ今直ニ之ヲ一掃スルハ困難ナルヘキモ上記  
ノ事情明カトナルニ至ラムカ小幡大使ニ対スル支那側ノ誤  
解ヲ解クニ足ルヘキモノアルヘシト思考セラル、ニ付貴官  
ハ冒頭往電訓令執行ノ際適宜右ノ事情モ申添方可然御取計  
相成度  
南京ニ転電アレ

765 昭和4年12月23日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

上海各紙の小幡公使来任反対論評ならびに中  
国側における同公使拒否の内情觀察について

上海 12月23日後發  
本省 12月24日前着

第一四四四号

佐分利公使死後小幡大使ノ駐支公使任命説頻リニ日本方面

ヨリ伝ヘラレ為ニ支那側ヲシテ論議ヲ惹起セシムルニ至リ

タルカ当地ニ於テ先ツ申報及新聞報ニ小幡大使任命反対説  
現ハレタリ南京ニ於テモ周龍光ハ上村ニ対シ雜談ノ際小幡  
大使ト二十一ヶ条問題トノ關係ニ付當時ノ新聞ニモ盛ニ書  
キ立テラレシ為一般國民ノ脳裡ニ深く印セラレ居ル為支那  
側ノ氣受宜シカラサル旨内話シタルコトモアル趣ナリシカ  
(上村来滬報告) 南京ニ於テ八日正式ニ支那側ニ申入レタ  
ル後電通及聯合ハ十日附東京電報ヲ以テ支那側カ既ニ「ア  
グレマン」ヲ与ヘタル旨報道シ尚同日小幡公使ノ会見談迄  
電報シ来レル為日本新聞記者ハ王正廷ニ対シ其ノ真否ヲ確  
カメタル処王ハ右通信ニ対シ甚シク憤慨シタル趣ニテ右ハ  
支那側ニ於テ小幡公使ヲ受クルニ付困難アルヲ知リツツ日  
本カ之ヲ押付ケムカ為ニ宣伝シタルモノト取りタルモノナ  
ルコト後ニ至リ判明セル次第ナリ

他方右「アグレマン」ヲ与ヘタリトノ報当地方ニ伝ハルヤ  
支那新聞中ニハ南京政府ノ措置ヲ攻撃セル論評サヘ現ハレ  
支那新聞ノ論調愈惡化セル次第ニテ右論調ハ心スシモ新聞  
其ノモノノ論調トノミ見ルヲ得ス所謂二十一ヶ条問題ヲ引  
出シテ(脱) 國民政府若ハ党部ノ画策ニ出ツルモノト思料

セラルル節鮮カラス

而シテ南京政府部内ニ於テハ王正廷反対運動モ相当ニ之ア  
リ殊ニ胡漢民一派ノ如キハ組織的ニ王ヲ苦シムル態度ヲ取  
リ居リ旁小幡大使ノ問題ニモ此ノ方面ヨリノ策動ニ乗セラ  
レタル点モアルカ如シ王正廷トシテハ或ハ小幡公使反対ノ  
空氣ヲ押切ル丈ノ力ナキモ必スシモ小幡公使ヲ拒否スル意  
向ナク結局ハ本件ヲ取纏メントノ意向ナリシ様見受ケラレ  
タルモ党部方面ノ反対益々強硬トナリタルニ依リ王ハ大使  
昇格問題ヲ至急実現シ之ニ依リ本件ヲ無事解決セントノ策  
ニ出テタル模様ナリシ処大使昇格問題モ此ノ機会ニ於テ実  
現スルコト不可能ナルコト明瞭トナリタルヲ以テ王モ結局  
大勢ニ押サレ強硬論ニ聽從スルノ已ムナキニ立至レルモノ  
ナリト觀測セラル

以上ハ大体小幡公使拒否ノ実情ナルカ右実情ノ裏面ニ流ル  
ル支那側ノ内情ハ看過スヘカラサルモノアリ即チ一ハ南京  
政府ノ基礎安定セス且内部ニモ問題ヲ捉ヘテハ王正廷ニ反  
對セムトスル分子アリ從テ王モ其ノ反対派モ齊シク意識シ  
居ルハ機會アル毎ニ常ニ對外強硬論ヲ唱ヘ之ニ依リ自己及  
政府ノ地位ヲ擁護セムトスルコトニシテ斯ル事情ノ下ニ於

テハ仮令正論ニテモ対外的ニ軟弱ナリトノコトナラハ實現性頗ル乏シキ次第ニテ小幡公使ノ問題ハ所謂二十一ヶ条問題ト言フカ如キ支那ニ取リテハ好個ノ題目ヲ捉ヘ居ルコトトテ勢ヒ徹底的ニ強硬論勝ヲ得タル実情ニシテ特ニ諸外国ノ態度退嬰のナル現状ニ於テハ勢ヒ強硬論ノ益々有力トナルハ当然ニシテ且最近支那政府ノ危機ニ際シ日本新聞通信ノ態度ハ宛モ支那政府ニ敵意ヲ有スルカ如キモノアリトノ誤解ヲ惹起シ日本ニ対スル空氣ハ益々不良トナルノ傾向アリ

之ヲ要スルニ支那側トシテハ内部分裂ノ困難ナル事情ヲ対外問題ニ依リ切抜ケ之ニ依リ政府ノ対内策ニ資セムトスル傾向多分ニ存スルヲ以テ之等錯綜セル事情ヲ充分冷静ニ考慮ノ上善処スルコト肝要ナリト存セラル

支、南京、奉天へ転電セリ

766 昭和4年12月24日

幣原外務大臣より  
在上海重光総領事宛(電報)

小幡アグレマン問題につき一面胡漢民、戴天仇に連絡すると同時に蒋介石にも我が方の意

ニ日支国交ノ大局ニ対スル当方ノ考慮ヲ吐露シ其反響ヲ見タル上更ニ同人ヲ通シ蔣ヲ説得セシムルコトト致度ニ付右可然御取計アリタシ

尚汪公使ハ往電第五六二号ヲ国民政府ニ電報スルト同時ニ黃郛ニ対シ小幡大使任命問題ニ対スル日本政府ノ態度ノ強硬ニシテ容易ニ別人ヲ任命スル模様無ク斯テハ日支間ノ重要懸案殊ニ通商条約問題モ当分着手スルニ由無ク從ツテ支那側ニテハ排日運動起リ日本亦之レガ対策ヲ講スル等ノ為日支ノ關係ハ益々悪化スル虞アルヲ以テ何トカ転円ノ方法ヲ講セラレ度ク貴見回示ヲ請フ旨電報シタル趣ナルカ未タ返電ニ接セサル由内密御含迄

南京ニ転電アリタシ

767 昭和4年12月26日

在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

元旦の蔣主席レセプション出席の機会を利用し小幡公使問題による日中関係行詰り打開を試みたいことについて

#### 向伝達方訓令

本省 12月24日後7時発

#### 第五六四号(極秘)

往電第五六一号乃至第五六三号ニ関シ

小幡大使任命問題ノ停頓ニ対シ当方トシテハ別ニ焦慮スルノ必要ナク事態ノ推移ヲ静視スルノ時宜ニ適スルヲ認ムルモノナルモ重要ナル政策上ノ問題ナラハ兎モ角全ク根拠無キ誤解偏見ヲ基礎トスル個人的感觸問題ノ為兩國国交ヲ一種行詰リノ状態ニ導クハ誠ニ遺憾ノ次第ナルニ付一面胡漢民戴天仇辺リニ連絡スルト同時ニ他面蒋介石ニモ充分我方ノ意向ヲ伝ヘ置クコト徒事ナラスト思考ス就テハ貴官ハ直接又ハ間接(例ヘハ船津ヲ煩ハスカ如シ)ニ先ツ黃郛(汪公使ノ談ニ依レハ黃郛ハ蒋介石ト極メテ親密ナル間柄ナリシモ宋美齡トノ結婚ニ強ク反対セル為爾來多少疎遠トナレルカ如ク又此關係ヨリ宋家殊ニ宋子文ト好カラザルモ蔣ハ今尚問題ニ依リテハ黃郛ノ意見ヲ求メ黃郛亦獻策スル等ノ事アル趣ナリ黃郛ト蒋介石トノ現在ノ關係如何ハ研究ノ要アリト思考スルモ当方ノ聞込御参考迄)ニ又御見込ニ依リテハ張群其他適當ト思量スル方面ニ対シ從來屢次ノ往電殊

#### 第一四五一号(極秘)

上海 発  
本省 12月26日後着

貴電第五六四号ニ関シ

当地ニ於テ精々御趣旨ノ貫徹ヲ期シ(船津ハ内地ニ在リ其ノ他此ノ目的ノ為ニ役立ツヘキ者当地ニハ無キニ付本官ニ於テ最善ヲ試ムヘシ)其ノ上ニテ南京ニ行キ貴電第五六一号ノ御訓令執行ニ努ムヘシ新聞記者ニ対シテハ元旦ノ蔣主席「レセプション」(往電第一四五〇号)ニ出席ノ為旁年末休日ヲ利用シ往電第一四四一号電通問題等ノ斡旋ヲ試ミタキ趣旨ナル旨仄カシ置クヘキニ付右御含請フ

768 昭和4年12月30日

在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使アグレマン拒否による日中関係行詰り打開のため張群と会談について

上海 12月30日後発  
本省 12月30日後着

#### 第一四六四号(極秘)

(1) 二十七日張群トノ会談要領

先ツ最近ノ政局ニヨリ日本新聞通信ノ記事ノコト等ニ付キテ意見ヲ交換シ本官ヨリ日本来訪ノ目的ハ最近日支關係ニ重大ナル出来事アリテ其ノ關係行詰リノ状態トナリ右ハ日支ノ關係ヲ憂慮スルモノノ黙視スル能ハサル次第ニ付貴下ノ智恵ヲ拝借ノ為来レリ即チ問題ハ小幡公使拒絕ノ件ナリト前提シ日支ノ關係ヲ説キ更ニ濟南事件解決後日支ノ關係ハ常軌ニ復シ茲ニ進ンテ建設事業ニ著手スルノ氣運ニ達シ幣原外相ノ下ニ佐分利公使ノ活躍ヲ見ルハ支那側ニ於テモ大ニ歡迎セル処佐分利公使ハ具ニ支那ヲ視察シ民国各方面ト接觸シテ一旦帰朝シ茲ニ幣原男ノ日支關係將來ノ建設事業ニ對スル腹案モ成ルニ至リタル訳ナリシカ佐分利氏ノ急死ハ日支兩方面ヲ当惑セシメタリ同氏ノ亡キ後右幣原外相ノ腹案ヲ遂行シ日支關係ノ建設事業ニ當リ得ル適任者トシテハ小幡大使ノ奮起ニ求ムルノ外他ニ途ナキ次第ナリ(支那側ニハ佐分利公使ハ帰朝後意見容レラレスシテ自殺シ政府ハ同氏ト反對ノ小幡大使ヲ任命セントスルモノナルコトヲ信シ居ル向アルニ付)トテ小幡大使ノ支那ニ對スル理解及内地ニ於ケル信望ヲ詳細ニ亘リ説明シ右ノ如ク幣原男ハ

種々ノ問題ヲ生シ却テ困ル事情ニアリ又支那内部ニハ各省ノ役人ヲ任命スル場合ニ斯ル問題ハ常ニ生スル次第ナルカ其ノ場合ニハ空氣ヲ見テ漸次人ヲ代フル等ノコトヲナス場合多シ小幡公使ハ未タ任命セラレタリト云フ訳ニ非ラス謂ハハ内意ヲ聞キタリト云フ程度ナルニ付

(3) 日本政府ノ面目問題モ起ラサルヘシ実ハ旧北方政府ニ關係アル人ヲ任命スルヨリモ年齒閱歴少クトモ新シキ人ヲ任命スルコト可ナルヘク支那側モ実ハ同公使ハ旧北方政府關係者トシテ変更ヲ希望セル向多シ日支關係ノ行詰リヲ憂慮セラルルハ全然御同感ナルモ当分公使ヲ置カス此ノ儘トシ事實現狀維持ヲ以テ漸次空氣ノ變化ヲ見ルコトスルノ外無カラム

ト述ヘテ容易ニ結論ニ達スル様子無カリシカ本官モ繰リ返シ各方面ヨリ説得ノ結果漸次態度ヲ變更シ遂ニ先方ニ於テ何等名案ナキヤトノ質問アリシニ付本官ハ

貴下ハ此ノ際何等カノ方法ヲ以テ蔣主席ヲ動カシ局面轉換ヲ計リ小幡公使ノ受入承諾ヲ直ニ与フルコトハ兎モ角之ヲ拒絕シタル一事ハ之ヲ取消スノ手段ヲ講シ然ルヘキニ非スヤ其ノ以後ニ於テハ双方ニ於テ空氣ノ改善ヲ計リ誤解ヲ除

日支關係ヲ顧慮シ所謂善意ヲ以テ為シタルコトニ對シテ反對アルヘシトハ豫期セサリシ所

不幸ニシテ支那ニ於ケル小幡公使任命反對ノ人為的輿論ハ高調セラレ其ノ誤解ヲ避クル為本官等ノ採リタル手段モ遂ニ効果ヲ奏セス総テノ善意ハ惡意ヲ以テ報ヒラルルニ至リタリ此処ニ日支ノ關係ハ全然行詰リノ状態ニ陥リタリ斯ル誤解ニ基ク「アグレマン」ノ拒絕ノ如キ前例ナキコトニテ日本政府ノ之ヲ重大視シ居ルハ無理カラヌコトニテ其ノ影響モ大ナルヘキヲ恐ル此ノ儘兩國政府カ晩合ヒノ狀況ニテ行クニハ日支ノ關係ハ餘リニ密接ノ關係ニアリ兩國關係ヲ真面目ニ考量スルモノハ之ヲ黙視シ得ヘキニアラスト考フトテ張ノ意見ヲ求メタルニ張ハ小幡公使拒絕ノコトハ自分モ承知シ居レリ同氏ハ所謂二十一ヶ条問題ノ關係者トシテ誤解ヲ受ケ支那側ノ輿論ニ反對アリ仮令誤解ト雖斯クナリタル以上ハ事情已ムヲ得サルヘク既ニ正式ノ機關ノ意見ノ決定ヲ見タル上ハ變更困難ナリト承知シ居レリ尚又自分ハ曩ニハ外交特ニ日支ノ關係ニ力添ヘ致シタルコトアルモ今日ニ於テハ外交方面ニハ全然關係ナク特ニ王部長トハ餘リ往来モナシ若シ自分カスル問題ニ關係スルトキハ各方面

去スルノ方法ヲ講スルモ遅カラサルヘシ

ト当座ノ思付ヲ述ヘ再三考慮ヲ促シタル処張ハ御趣旨ハ自分モ同感ナルニ付及ハス乍ラ出来得ル丈ノ尽力ヲ為スヘシ就テハ先ツ拒絕ノ点ヲ撤回スル手段ヲ講シ其ノ上ニテ空氣ノ變化ヲ見ル様努力スヘシ今日ノ狀況ニテ直ニ支那政府ニ承認ヲ迫リ仮ニ小幡公使ノ任命ヲ實現シテモ何モ仕事ハ出来サルヘシ兎ニ角自分ノ尽力ノ方法ハ極メテ機微ノモノニテ成否ハ申上ケ難キモ御一任ヲ請フト云ヘルニ付本官ハ重ネテ充分尽力ヲ促シ置キ其ノ他餘談ヲ交ヘ談話二時間半ヲ費シテ引キ取リタリ

769 昭和4年12月30日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使アグレマン拒否による日中關係行詰り打開のため黃郛と会談について

上海 12月30日 前發  
本省 12月30日 後着

第一四六五号(極秘)

(1) 二十八日黃郛ト極メテ秘密ニ許卓然私宅ニ会见ス(黃ハ從

来全ク他ト会見セス本官ハ北京当時ノ關係ヲ以テ豫テ聯絡ヲ執リ居ル許氏ヲ通シテ会見セリ)

北京関税會議ノコト佐分利氏ノコトヨリ支那ノ政局等ニ付意見ヲ交換シタル後大体前日張群ニ話シタル筋ヲ以テ小幡公使ノ問題ヲ持出シタルニ黄ハ自分政治外交ニハ全然關係セス王部長ニモ自分辭職以後一度モ面会セス小幡氏ノ問題ハ自分ノ内密ノ南京消息ニ依レハ既ニ確定的ノコトト承知ス要スルニ二十一ヶ条問題ノ關係者ニシテ将来之ヲ支持セサルヘカラサル立場ニアル人ト解セラレ居リ支那トシテハ将来二十一ヶ条ハ寧ロ取消サムトスル立場ニアリ此ノ点ニ難関アルカ如シ

尤自分トシテ二十一ヶ条ハ既ニ残リ殆トナク其ノ善惡ハ論スルニ足ラスト思フ而モ此ノ問題ハ支那人ノ脳裡ニ餘リニ深刻ニ刻マレ居リ之ニ阻マレタル次第ナラム從テ暫ク音ヲ立テス現状ニテ仕事ヲ進メラレ空氣ノ變化ヲ見テ善処スル様ニセラレテハ如何ト述ヘタルカ本官ハ之ニ對シ詳細意見ヲ述ヘ

且張群ノ場合ノ如ク問題ハ支那ノ取リタル手段ノ日本ニ對スル反響ハ事ノ性質上頗ル重大ナルモノアルヘキニ付此ノ

770 昭和4年12月31日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

小幡公使アグレマン拒否等に関し中国新聞記者の質問に対する蔣主席の応答について

南京 発  
本省 12月31日前着

第一三〇八号

蔣介石ハ支那人記者三十餘名ヲ招待シ一年以来ノ時局ノ經過ヲ話シ席上種々質問アリ蔣ハ一々之ニ応酬セルカ左ノ点御参考迄

一、(問) 小幡公使任命ニ国民政府ハ民意ニ從ヒ同意ヲ与ヘサリシ処日本ハ尚之ヲ固執シ再ヒ同意ヲ求メ来リタル趣ナルカ果シテ如何

(答) 不同意ハ即チ不同意ナリ之我国家主權ノ然ラシムル処ニシテ日本側ニ之ヲ強要スル力ナシ第二次ノ同意要求ハ未タ政府ニ到達シ居ラス

二、(問) 支那ハ明年海関稅率ヲ改正スルヤノ說アル処事実ナリヤ

(答) 目下各種ノ準備既ニ整ヒタルヲ以テ明年改正スル

儘ニテハ空氣ハ惡クナル許リナリ之カ日支双方ノ為憂慮ノ焦点ナリ此ノ儘放任スルハ日支双方ノ關係ヲ思フモノノ態度ナラサルヘキ旨ヲ各方面ヨリ力説シ黄郛ハ右拒絕ヲ取消スコトモ餘程困難ト考ヘラル特ニ政府ハ目下举措相談中ニシテ閻錫山派ノ要求ニ依ルモノニシテ王部長カ去ルコトトナラハ仮令蔣主席ノ異議アリトスルモ右ノ取消ハ為ササルヘク是等ノ点餘程複雑ナリ兎ニ角自分ハ方法ヲ設ケテ出来ル丈ケ蔣氏ヲ動かスコトニ努力スヘシ尤右ノ効果ヲ豫期シ得ルハ正月休ミ後十日前後ナラムカトテ種々相談ノ結果本官南京行ハ兎ニ角一日ノ儀式ニノミ列スルコトトシ本件ニ付テハ右黄郛氏ノ努力ノ結果ヲ待ツコトニ相談ヲ極メタリ尚黄郛ハ張群ヲ稱賛シ常ニ聯絡アルコトヲ自ラ話シ居タリシニ付本官ハ張市長ニ丈ケハ本件ヲ話セル旨ヲモ附言シ之ニテ二時間餘ニ亘ル会見ヲ終リタリ

(黄郛ハ特ニ会見ノ内容ハ勿論会見ノ事實ヲモ他ニ報告セサル様依頼セリ) 張黃兩氏トノ会谈ニ依リテ得タル印象ニ依レハ本件ハ支那政府部内ニ於テ容易ニ動カシ難キモノトナリ居ルコトヲ感得セリ

コトニ決定セリ

(問) 稅率改正ニ對シ日本ヨリ反對ヲ申出ツル趣ナルカ如何

(答) 之モ我方主權ナレハ如何ナル国ト雖反對スル權利ヲ有セス云々

771 昭和4年12月31日

在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

張・黄兩氏の談話をみるも中国側に小幡公使アグレマン拒絶を翻させること困難なることについて

上海 発  
本省 12月31日後着

第一四六六号(極秘)

貴電第五六九号ニ関シ(小幡公使ノ件)

往電第一四六五号黄郛トノ会谈ノ通本官南京行ハ主トシテ儀式参列ニ止メ(出発ハ三十日夜行トス) 同氏等トモ聯絡ヲ執リ其ノ結果必要ノ措置ヲ執ルコトトスヘシ尤モ今回モ事態ノ重大性ハ必要ノ向ニ印象シ支那側ノ反省ヲ促ス手段

ハ講スル積リナリ昨今当地ニ帰来セル辻「テツシユウ」ハ蔣主席其ノ他ニモ犬養、頭山諸氏トノ関係上面会スル由申シ居ルニ付適宜旨ヲ含メ置キタリ

尚本件ヲ全然讎サシムルハ黄、張両氏ノ談話ニ見ルモ難事ト見ルノ外ナキモ万一此ノ際拒絶ヲ撤回セシメ得レハ徐々ニ方法ヲ講シ政局ノ変転等ニ伴ヒ空氣ノ変化ニ俟ツコトヲ得ヘク何レニスルモ鳴ヲ鎮メ日本ヨリ来ル新聞通信等ニ依リテ問題ヲ悪化セシメサル様注意ノ要アリト思考ス特ニ黄郭、張群等ト面会ノ件ハ絶対ニ洩レサル様願度シ

772 昭和4年12月31日 在上海重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

重光臨時代理公使が蔣主席レセプションに出  
席のため南京行について

付記一 昭和五年一月十五日発在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛電報公第二号  
蔣主席より黄郭に小幡公使問題は暫く空氣の  
転換を俟ちたいと回答および黄が日本側の重  
光代理公使任命は機宜の策であると述べたこ

第一四七五号

本官林出ヲ從ヘ三十日夜行ニテ赴寧ス

(付記一)

上海 1月15日後発  
本省 1月15日後着

公第二号(極秘)

客年往電第一四六七号ニ関シ

一月十五日許卓然林出ヲ来訪シ嚮ニ黄郭ヨリ蔣介石ニ対シ人ヲ派シテ説カシメタルニ対シ最近蔣ヨリ黄ニ対シ小幡公使問題ハ暫ク空氣ノ転換スルヲ俟チ度キ旨回答シ来レル趣ナリ又黄郭モ今回ノ日本政府ノ措置ハ極メテ機宜ノ策トシテ支那側ニ於テモ喜ヒ居ル次第ニ付其ノ中当地ノ有力ナル実業家ヲ動カシ空氣ノ一新ニ努力スル積リナル旨許ヨリ伝言セルニ付日本政府ノ今回ノ措置ハ小幡公使「アグレマシ」問題ノ円満解決ヲ希望スル餘リ採レル一時ノ便法ニ過キサレハ黄郭ニ対シテモ右目的達成ノ為今後引続キ援助セラレン事ヲ切望スル旨許ヨリ伝言セシメ置キタリ  
南京ヘ転電セリ

とについて

二 昭和五年一月十八日発在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛電報公第二〇号

蔣主席が小幡公使問題による日中関係行詰りに際し重光代理公使任命を歓迎すると述べたことについて

三 昭和五年末外務省亜細亞局第一課議會調書原稿

「公使館昇格問題」

四 昭和五年一月十一日発在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛電報第四五号

中国側の佐分利公使の死因に関する観測について

五 昭和五年一月十一日発在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛電報第四七号

佐分利公使が死の直前に王正廷宛に送ったとする手紙の内容について

上海 発  
本省 12月31日後着

(付記二)

上海 1月18日後発  
本省 1月18日後着

公第二〇号(極秘)

今回首都訪問ノ期ニ於テ政府及党部主要人物ヲ歴訪シ挨拶ヲ為シ置キタルカ十七日午後ハ林出、上村帯同蔣主席ニ会见(主席ハ豫テヨリ本官ヲ案内シタキ意嚮ヲ洩シタリ)茶菓ノ饗応ヲ受ケタルカ其ノ際本官就任ノ挨拶ニ対シ主席ハ貴下ノ任命ニ対シテハ自分始メ政府各部ノ等シク喜フ所ニシテ又大ニ歡迎シ居ル次第ナリト述ヘタル際本官ハ日支国交ノ重大ナルハ今更申迄モナク主席ニ於テモ本官等ノ仕事ニ充分ノ御援助ヲ与ヘラレムコトヲ請フ尚本官ハ所謂代理公使ニシテ御承知ノ通小幡大使任命ノ行詰リノ結果生シタル日本政府ノ窮餘ノ策ナルカ自分トシテモ一日モ速ニ小幡大使ニ対スル支那側誤解ノ氷解シテ自分ノ代理期間ノ短カラムコトヲ期待ス尚自分ハ右ノ通代理ナルモ日本政府ハ日支国交ヲ重シ小幡大使任命ノ行詰リニ拘ラス自分ニ対シ公使ト同様ノ職權ヲ賦与シ各種ノ交渉問題等ノ処置ニ当

ラシムル次第ナリト答へ蔣主席ニ於テハ謝意ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ尚本官ハ此ノ機ニ於テ小幡大使問題ノ件及同大使ノ日支關係ニ尽力セラレタルコト等詳細ニ述ヘタルニ對シ蔣主席ハ首肯シ居タルカ其ノ他時局等雜談ヲ交ヘテ辞去シタリ

南京へ転電セリ

## (付記三)

## 公使館昇格問題

帝国政府ハ昭和四年十二月七日在上海重光總領事及在南京上村領事ニ電訓シ小幡大使ノ駐支公使任命ニ對スル国民政府「アグレマン」ヲ請求セシムルコトセルカ其際支那側ヨリ公使館昇格問題ヲ提起シ来ルコトアルヘキヲ豫想シタルヲ以テ右様場合ニハ帝国政府トシテ既ニ主義上本件ヲ決定シ居リ小幡大使ノ任命ハ右昇格促進上与ツテ力アルヘキ旨私見トシテ申述ヘ差支ナキ趣ヲ訓令シ置キタリ

然ルニ十二月八日上村領事ニ於テ前記訓令執行ノ際王部長ハ果シテ昇格問題ヲ提起シ来リ更ニ同月十日在本邦汪中国公使ハ本国政府訓令ニ依ル趣ヲ以テ幣原大臣ヲ來訪シ小幡

大使ノ駐支公使任命ト同時ニ公使館昇格ヲ實行セラレタキ旨申出タルヲ以テ幣原大臣ハ昇格問題ニ関スル帝国政府方針ハ既ニ決定シ居リ可成速ニ之ヲ實行シタキ意向ナルコトヲ説明スルト共ニ本件ハ出来得ル限り關係列国トモ協調シテ實現ヲ図リタキ希望ノ外列国トノ交渉ハ短時日間ニ纏ルヘキヤ甚タ疑ハシキ一方日支間ニハ重要緊急ノ問題山積シ居リ至急駐支公使任命ノ必要アル次第ニ付此際昇格問題ト「アグレマン」問題トハ切離シ考慮スルヲ適當トスヘキ処国民政府ハ右二者ヲ交換問題トスル次第ナリヤヲ訊シタルニ汪公使ハ之ヲ否定シ居リタルカ更ニ十三日上村領事ヨリ王部長ニ對シ同様我方意図ヲ説明シ支那側ニ於テ昇格問題ニ付テハ幣原大臣言明ニ信賴スルコトトシ此際至急「アグレマン」問題ヲ決定センコトヲ要望シタルニ同部長ハ小幡大使ニ對シテハ二十一個条交渉ノ關係ヨリシテ各方面ノ反對熾烈ナルモノアル処同部長トシテハ此際日本政府ヨリ何等国民政府ニ對スル好意ノ表示ヲ得テ之ニ依リ右反對ノ空氣ヲ緩和セントシ昇格問題ヲ提議セル次第ナリト述ヘ更ニ本問題ニ関シ日本政府ハ從來屢々口約ヲ与ヘラレ居ルニ拘ラス幣原大臣ノ時代トナルモ之ヲ實行セサルハ遺憾ニシテ

最早日本ノ此種目的ニハ信用ヲ措キ難シトノ趣旨ヲ述ヘタルヲ以テ上村領事ハ昇格ノ遷延ハ寧ろ支那ノ内政關係ニ依ルモノニシテ日本政府ノ責任トノミ言ヒ得サルコトヲ指摘シ我方ノ不信ヲ云々スルノ不穩当ナルヲ詰ルト共ニ同部長ノ態度ハ昇格實現ノ手段トシテ「アグレマン」問題ヲ紛糾セシメツツアルモノトモ解セラルヘシト述ヘタルニ王部長ハ右二問題ハ嚴重區別シ居レルモ實ハ支那側ニ於テハ汪駐日公使ノ後任ニ国民党ノ一有力者ヲ任命セントシ居ル処同人ハ大使ニ非サレハ之ヲ受ケストノ態度ヲ取り居ルヲ以テ小幡公使任命ノ機會ニ昇格ノ實現ヲ図ラントスルモノニシテ若シ即時實行力不可能ナラハ最近ノ時期ニ之ヲ實行ノ意向アル旨文書ヲ以テ通報ヲ得度トテ實質上右兩問題ヲ交換条件トスルノ態度ヲ示シタリ

如上情勢ニ顧ミ政府ハ再応上村領事ヲシテ「アグレマン」問題ニ関スル支那側ノ態度ノ誤レルコトヲ各方面ヨリ指摘シ其ノ反省ヲ促サシムルコトトシ昇格問題トノ關係ニ於テモ日本ハ兩國国交ヲ重要視スル見地ヨリ夙ニ自発的ニ方針ヲ決定シ所要經費ヲモ豫算ニ計上シ居リ又昇格實現ノ為メ關係諸国ト交渉セル経緯サヘアルコトヲ説明スルト共ニ昭

和四年六月芳澤公使ノ信任狀提出ノ際本件ニ関スル我方意向ヲ洩シタルコトアルモ王部長所言ノ如ク何等口約ヲ与ヘタル事實ナク同部長ニ於テ漫然帝國政府ヲ不信呼ハリスル如キハ甚タ不都合ナルコトヲ指摘シ尙小幡大使ノ公使任命後ハ遲滞ナク列国ト協議ヲ開始スルト共ニ徒ラニ事態ヲ遷延セシメサル方針ナルモ本件ニ関シ文書ノ交付ヲ求ムル如キハ夫自身我方ニ對スル不信ノ表示ニシテ応諾シ得ヘキ限りニ在ラサルコトヲ申入レシムルコトトシタリ然ルニ次回十二月十七日ニ於ケル上村領事ト王部長トノ会見ニ於テ先ツ同部長ヨリ国民政府トシテ小幡大使ヲ「ベルソナ、ノン、グラタ」ト認メ「アグレマン」拒絕ニ決定セル旨ヲ通告スル所アリ從テ之ト牽連セル昇格問題ノ交渉モ自然中絶トナリタリ

其後昭和五年十月十七日永井外務政務次官南京ニ於テ王外部長ト会見ノ際同部長再ヒ昇格問題ヲ提起シ此ノ際日本ニ於テ先ツ公使館昇格ヲ實現スルニ於テハ支那ノ對日感情ハ頓ニ良好トナリ各種案件ノ交渉モ順潮ニ進行スルニ至ルヘシトノ趣旨ヲ述ヘ居リタリ

## (付記四)

上海 1月11日後発

本省 1月11日後着

## 第四五号(極秘扱)

佐分利公使ノ死因ニ付テ支那側ニ於テ深ク探究スル処アリ其ノ死因及小幡大使公使任命ノ申出カ政策ノ變更ノ結果ナルヘシトノ議アルハ頭初ヨリ彼等ノ心中ニ在リシコトハ想像セラレタルニ付本官ニ於テハ此ノ点輿論其ノ他ニ対シ絶ヘス誤解ヲ解クニ努メ来リ支那側トノ談合ニモ常ニ之ニ重キヲ置キタル処ナルカ王正廷ノ船津ニ対スル内談ハ此ノ点ニ関スル意見ヲ素直ニ述ヘタルモノト思ハル(戴及胡其ノ他ノ談話ニテモ窺知セラレタリ)王ハ佐分利公使帰朝前ニ起リタル臨時法院問題ヲ以テ特ニ日本ノ政策變更ノ重要ナル一兆候ト解釈シタルラシク右政策變更ノ為佐分利公使ノ意見容レラレス茲ニ重ナル死因ヲ造リタリト認メ居ルモノノ如シ尚此ノ種ノ觀察及報告ハ当時日本人及支那人ノ手ニ依リ日本方面ヨリ彼等ニ送ラレタルニ非サヤト推セラルル節アリ別ニ電報スル佐分利公使ノ王正廷宛ニ書キ越シタル手紙ノ件ノ如キハ全然事実無根ノコトニシテ葬リ去ルニハ

単ニ口頭ヲ以テ翻訳セシメタル趣ニテ板坂ハ右訳者ノ一人ヨリ内密ニ聞取リタルモノノ由ニテ訳者カ口訳セル際王部長ハ嚴肅ナル態度ヲ以テ感激ノ表情ヲナセル由ナリ其ノ内容ハ公使ノ抱懷セル対支意見ヲ詳細ニ述ヘ營テ居タル革命中ノ支那ト今回南北ヲ一巡シテ見タル結果トヲ批判シ統一セリト称スル今日カ豫想ニ反シタリシヲ述ヘ公使カ在米中当時原敬氏ヨリ教ヘラレタル対支意見ヲ述ヘ其ノ說ヲ尊重シテ愈其ノ実行ニ取掛ラント決心セルモ国民政府ノ対外政策カ公使ノ同情ヲ裏切り日本朝野ノ同情ヲ失ヒ動モスレハ重大ナル危機ヲ生セントスル事実ヲ指摘シ欧米ノ現状ヲ説

餘リニ情報ノ出処等ニ見テ不合理ノ点アリ恐ラク右ハ何人カ外国語ニ堪能ナラサル日本人ノ手ニ依リ佐分利公使ノ心情及日本ノ事情ヲ王正廷ニ秘密ニ書送リタルモノヲ誤マリ伝ヘラレタルモノカト想像セラル将来之等ノ事カ種々取沙汰セラルルコトアルヘキニ付右電報ス  
南京ヘ暗送セリ

## (付記五)

上海 1月11日後発

本省 1月12日前着

## 第四七号(極秘)

往電第四五号末段ニ関シ

元旦南京出張ノ際豫テヨリ知り居ル南京ノ板坂医師(常ニ政治ニ趣味ヲ有ス)林出ニ極内密ナリトテ語ル処ニ依レハ佐分利公使急死ノ後間モナク王正廷ハ公使ヨリ日本文ノ手紙ヲ受取リタルカ冒頭ニ「読メル丈読マレタク内容ハ他言セサル様」ト堅ク断ハリタル長文ノモノニテ王ハ数日間之ヲ秘シ置キタルモ不明ノ点アリシ為腹心ノ部長直屬ノ部下二名ヲ呼ビ若シ漏ラサハ免職ノ上嚴罰ニ処スヘシト前置シ

キ東亜ノ危機ヲ叫ビ支那ノ反省ヲ促シ翻テ日本ノ現状ト日支存立トニ言及シ支那ノ態度ヲ改メンコトヲ戒メ今日ノ日本上下ニ瀾漫セル対支強硬策カ遂ニ輿論トナリ国ヲ傾ケテモ日本ノ存立ノ為ニハ最後ノ手段ヲ執ルニ至ラント極言シ極メテ親切ニ卒直ニ認メラレシモノニシテ訳者等モ非常ニ感動セシ模様ナリトノコトナリ尚板坂ニ対シテハ林出ヨリ引続キ探查方依頼シ置キタリ  
南京ヘ暗送セリ